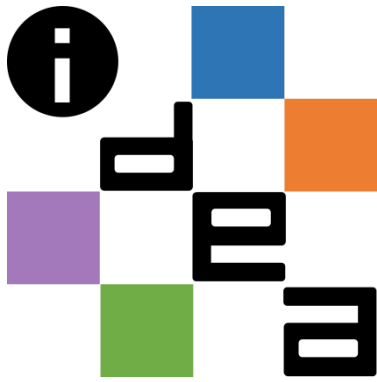


NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。  
ニュースレター アイデア



2017

12月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



- |   |                |                                |
|---|----------------|--------------------------------|
| 2 | <b>二言三言</b>    | バスケットで学んだことを子ども達に伝えるため、東京から一関へ |
| 4 | <b>団体紹介</b>    | 室根山星空の会（室根）                    |
| 5 | <b>地域紹介</b>    | 一関 弥栄7区（一関）                    |
| 6 | <b>企業紹介</b>    | 東里工業株式会社（東山）                   |
| 7 | <b>センターの〇〇</b> | センターの自由研究 一関の餅のルーツ             |

## バスケットで学んだことを子ども達に伝えるため、東京から一関へ

対談者 岩手県立大東高等学校 バスケットボール部 顧問 あらい やすあき 新井靖明さん  
聞き手 いちのせき市民活動センター 支援員 佐藤大輔

## プロになるまでの道のり

【佐藤】今年4月から大東高校に赴任されてきた新井靖明さんですが、先生になる前はプロバスケットボール選手として名古屋市、埼玉県、仙台市のチームに所属し各地で活躍されてきました。今回は一関に来るまでの活動と一関に来てからについてお聞きしていきたいと思いますが、まずは新井さんとバスケットの出会いを教えてください。



岩手県立大東高等学校  
バスケットボール部  
顧問 新井靖明さん

【新井】僕は東京都出身で、小学2年生の時にバスケットを始め、6年生の時に全国2位になり、それで急にバスケットが楽しくなったんですね。当時バルセロナオリンピックや漫画「スラムダンク」でバスケットがぐっと盛り上がっていた時期で、僕はこの頃に「プロバスケット選手になりたい」と思い始めました。中学に進学してからもバスケットを続け、高校は秋田県の能代工業高等学校（以下「能工」）に進学しました。

【佐藤】秋田県の能工といえばバスケットの名門ですよ。

【新井】進学先は色々迷いましたが、僕が中学生の頃に能工が3年連続3冠（「インターハイ」「国体」「ウィンターカップ」）を達成し、「どうせやるならそういうところでバスケットをやりたい」と思い進学を決めました。母の実家が秋田なので、小さい頃から遊びに行ったりしていて縁もありましたね。

【佐藤】では、お母さんの実家から通学されていたん

ですか？

【新井】いえ、県外から来たバスケット部専用の下宿が2つあったので、そこに入りました。僕と同じようにバスケットをやりたくて県外から来た生徒も多く、皆と一緒にバスケット漬けの毎日をご過ごしました。家族と離れホームシックにもなりましたが、当時は携帯がなかったので実家からテレホンカードを大量に送ってもらい公衆電話で話しました。他の生徒も同じ気持ちだったんでしょう、電話ボックスの前にはいつも長蛇の列ができていましたよ。

【佐藤】まだ中学を卒業したばかりですし、寂しい気持ちもありましたよね。

【新井】寂しかったですが、チームメイトとの楽しい思い出は沢山できましたし、「このままでは帰れない」「ここまで来たんだから何か残したい」とかそういう気持ちが強かったです。高校卒業後、大学はその頃にバスケットで日本一になった日本体育大学に行くことになり、そこでバスケットを続けながら教員の免許も取りました。

【佐藤】そうなんですね。卒業後はすぐプロのチームに入ったんですか？

【新井】そうですね。卒業後すぐにJBL（Japan Basketball League）の三菱電機のチームと契約しました。僕らの代で大学からJBLに行けたのは全国で7人くらいだと思います。僕はJBL※の愛知県で3年間、BJリーグ※の埼玉県で3年間、仙台市で2年間活動しましたが、プロになるとバスケットが「職業」に変わり、当時は1年ごとに変化を感じました。1年契約で、選手たちがスポンサーを集めたり、怪我の影響で試合に出られず悔しい思いをしたり…。色々なことに悩み、バスケットが嫌いになりそうな時も実はあったんです。（※当時は「JBL」と「BJリーグ」の2つのリーグが存在していました）

【佐藤】取材の前に新井さんの選手時代のブログを読ませていただきましたが、チームメイトのこととか、ファンの言葉とか色々なことに悩まれていて、でも周りの環境にすごく真摯に接していましたよね。

【新井】いや～、お恥ずかしいです。情報発信は得意



ではなかったんですけどね…。スポンサーを集めなきゃという時に、そこではファンの方との距離はすごく近く感じましたね。

## バスケットを引退し、技術を教える立場に

【佐藤】仙台のチームに移籍したのは東日本大震災の1年半後ということですが、何か感じたことはありましたか？

【新井】はい。僕は震災が起きた時埼玉のチームにいましたが、震災でそのシーズンの試合がなくなりチームの活動がストップしたんですよね。それでチーム内でも「自分たちの契約はどうなるんだ」なんて話していましたが、移籍して仙台に来てみると全然そういうことではなく、沿岸の何も無い風景とか被災の現場を見ると、関東にはわからなかった雰囲気の違いをすごく感じました。被災地支援として小学生にバスケットを教えたり、気仙沼では地域の方々に試合に無料招待したりしましたが、その時に地元の方たちの想いを身近で感じましたね。

【佐藤】震災の時は、東北のために色々活動してくださいましたね。教員を目指そうと思ったのはその頃だったんですか？

【新井】教員になりたいと思ったのは震災の後です。その頃僕は結婚を考えていたこともあり、働くためにチームに在籍しながら知り合いに頼んでバスケット以外の仕事をしていたのですが、「これからは自分の経験や学んできたことを、バスケットを頑張りたいと思っている人に伝えたい」と思いました。



【佐藤】現役だった頃からそのように意識し始めていたんですね。結婚を考えていた時期ということですが、奥様が千厩の方なんですか？

【新井】ええ。妻もバスケットをしていたので活動には理解があります。

【佐藤】学校の先生になる時に、「岩手で」というのは奥様の地元だということ意識して選ばれたのですか？

【新井】それもあります。小さい頃から行き来してましたし、高校の思い出もあり、東北が好きでしたから。最後は東北の仙台で引退したいと思っていま

し、その後も残りたいと思っていました。

31歳で現役を引退し、平成26年の8月に岩手に来て、最初の赴任先は盛岡商業高校でした。そこでバスケットの顧問をさせてもらいましたが、自分が教える立場になると伝えたいことがなかなか伝わらず。限られた時間の中で、どう伝えればいいのかとか色々悩みましたね。

【佐藤】盛岡で顧問をされていた時に、岩手国体にも出場したとお聞きしましたが。



エイトナイナイズ  
チーム「仙台89ERS」に所属していた2012-2013シーズンの時の写真です。高校生の時からシュートの腕を磨き、以降はずっとシューティングガードのポジションでプレイしてきました。

【新井】はい。僕は声をかけてもらって、強化指定クラブ「ST-IWATE」という社会人チームのクラブに入り練習を始めたのですが、僕はもうバスケットを引退していたしあまり気が進まなかったんですよね。でも周りの人達の国体にかける想いや熱意を感じて、「僕も頑張らなきゃ」という気が起きてきたし、一生懸命取り組むことで岩手県人になれるかなとも思ったんです。

【佐藤】国体が終わり今年から大東高校に転勤になりましたが、一関への転勤は新井さんが希望されたのでしょうか。

【新井】いや、希望したわけではないですね。昨年度までは講師だったのですが、去年教員試験に合格し、本採用後初めての教員生活が大東高校ということになります。今は大東高校で1年生の副担任と保健体育を専門に教えていますが、教えるというのは難しく、自分も日々勉強しています。そのほかにバスケット部の顧問もしていますが、部員は皆真面目に頑張っているし、どうしたら結果に結び付けられるだろうとか、考えながらやっていますね。

これからは自分も教員としての勉強をしながら、僕が今までやってきたバスケットを生徒達にしっかり教えていきたいです。挑戦することは怖いし失敗するかもしれないけど、高校生だからどんどん挑戦して良いと思います。強いチームに堂々と立ち向かっていけるような、そんなチームを作りたいですね。

## 新井靖明さんの連絡先

岩手県立大東高等学校

電話:0191-75-3116(事務室) FAX:0191-75-3117

## 団体 紹介



西城さんと西城さんの自宅天文台

### ～基本情報～

- ◆事務局：西城和廣さん
- ◆連絡先：〒029-1201  
一関市室根町折壁字隠谷 93-1
- ◆電話：0191-64-2773

## 楽しむことを第一に ～世代を越えた共通のロマン～

### 「星空の街」室根にて

みなさんは自分の住所を聞かれた時にどう答えますか？一関や岩手から始める方が多数で「太陽系からの位置」で答える人はいないでしょう。でも実際には、私たちは宇宙の中の地球という惑星の中の日本という国の中にいて、「宇宙人に住所を説明する時には太陽系からの位置で説明しなければいけないかもしれない」…と、ロマンあふれるお話を聞かせてくださったのは、星の愛好家の集まり「室根山星空の会」の事務局・西城和廣さんです。会の発足当時には、星には興味はなく、会員でもなかった西城さんですが、平成5年にオープンした「きらら室根山天文台」を、室根村職員として担当することを契機に天文の勉強を開始。結果的には自宅に手造りの天文台を設置するほど、のめり込んでしまったそうです。

そもそも室根村(現一関市室根町)は昭和62年度に環境省(当時の環境庁)が行った「星空の街コンテスト」において「星空の街」に選定されました(108市町村が選定され、岩手県では室根村を入れ3市町村の選定)。室根山星空の会は、この頃に小学校教諭だった室根在住の男性の呼びかけのもと、村内外の星の愛好家たちで結成されました。

平成元年からは同じく環境庁が「全国星空継続観察」を開始。夏・冬の年に2回開催され、定められた期間の中で肉眼や双眼鏡など誰にでもできる方法によって星空を観測し、指定の星・星座等がどの程度見えたかを記録・報告するもので、同会でもこの事業に参加。平成18年の夏に実施した観察では全国2位となりました。同会はこの事業に参加するための観察会を「星まつり」と称し、観察だけでなく愛好家同士やその家族同士の交流会の場にもつなげてきました。

### 星の観察 = 「夜」を楽しむ

同会では「出前サービス観測会」として、旧東磐井を中心に、PTAや公民館(現市民センター)からの出張観測会の要請にも応えてきたほか、室根山天文台のイベントにも協力。観測会では年配の人は太陽や月など身近なものを見ると喜ぶのに対し、子どもは土星や月のクレーターなどに興奮することが多いそうです。

とは言え、子どもたちは夜に外で遊ぶことが少ないため、子どもたち同士で遊びまわり、なかなか集まってこないのだとか。そこでまずは思う存分遊ばせ「夜の匂い」をかいでもらい、「遊んでも良いから、10分だけでも遠くの緑、星を見てください」と子どもたちに伝え、観測会という体験そのものを楽しませます。

また、「まずは自分の目(肉眼)で見る」ことを推奨し、「自分の感性で楽しむ」ために、手作りの解説ペーパーなどにも工夫を凝らしています。

### 「きっかけ」としての「天体」

現在は制度が変わり、趣旨に賛同すれば「星空の街」を宣言できるようになりましたが、室根村は選考を経て選定された星空の街。西城さんは『「星空の街」に選定された地域として、その環境を守っていく、考えていく、継続していくことが会の使命ではないか』また「自分たちだけの活動以外に、本に登場する星・星座を生々の星空で探すなど、図書館等との連携にも取り組んでいきたい」と、今後も天体を通して、室根の自然豊かな環境を守りながら、たくさんの人たちに「夢と感動」を届けていくための意気込みを語ってくださいました。



平成8年の観察会の様子



## 地域紹介



運動会優勝を記念して撮った集合写真  
(賞状を持っているのが菅原英さん)

### ～基本情報～

- ◆自治会長：菅原英<sup>まさる</sup>さん（3期5年目）  
※菅原さんは自治会長と区長を兼務しています。
- ◆43世帯144人が暮らす弥栄7区。民区内に弥栄市民センター平沢分館(建物は平成2年に統合した平沢小学校の校舎)を有す、山や田畑に囲まれた農村地域です。

## 地域の花を咲かせるため、強い根を育てよう

### 区長の面白いこと、難しいこと

弥栄7区（以下「7区」）には以前「二言三言」でご紹介したカフェ「HIRASAWA F. MARKET」があり、今回お話を伺った区長の菅原英さんは、お店の開店時に自身が所有する古民家を店舗として貸すなど、地域を盛り上げようとする活動を応援してきました。

菅原さんは今から5年前、区長になるために当時勤めていたサービス関係の仕事を退職。区長になってからの感想をお聞きすると「地域の皆さんは民区の活動にとっても協力的です」と感謝を口にする傍ら「区長をやっていて自分の言動に責任が生じることを痛感しました。それで細かいところまで気を使うようになったら、自分が『せこい（細かい）男』だと有名になってしまったんだよね」と苦笑い。区長の活動に面白さを感じながら、難しさを感じる瞬間もあるようです。

### 「7区の宝」と「運動会連覇の記録」

7区には「ゆとりの杜<sup>もり</sup>」という地元の人達が大切にしている憩いの場があります。国道から徒歩10分、林の中に開けた空間があり、そこにある小高く平らな丘は優に100人が入れるほど広く、中央付近には大きな東屋とテーブル・長椅子を配置。7区では春と秋に行う草刈り清掃後の休憩・懇親場所として活用しており「宅地から離れているので騒ぎ声を気にしなくて良いし、春は桜、秋は紅葉を楽しめる地元の人のみぞ知る憩いの場所です」と笑顔を見せます。

また、7区の自慢として挙げたのは弥栄地区全体で行う大運動会での5年連続優勝の記録。毎年、開催日前に主要役員が集まり、各種目に誰が出てもらうかを割り当て一覧にして全戸配布。「指名されれば“自分が出なければ”という気が起きてくる」と、住民の参加

意識を高める工夫を語る菅原さん。「子どもが出ればその親や祖父母も続いて出てきてくれる。地域の方は協力を惜しまないし、『優勝』はその行動の証なのではないでしょうか」と誇ります。

運動会後に行う感謝祭では民区から皆さんに焼きそばや飲み物を用意するほかに、住民有志からかき氷、焼き肉やお寿司などを提供いただき、毎年お祭りのように賑わいます。0～93歳までが一堂に集まる数少ない場であり、運動会に参加した別の民区の子も達も集まるそうです。

### 運営のコツは法則やヒントを探すこと

7区では会報紙「七区だより」を年6回発行。紙面では民区の活動紹介のほか、赤ちゃん誕生や幼稚園・小中学校に新しく入った子を名前入りで紹介し地域の子どもたちの成長や嬉しいニュースを皆で共有しています。中でも、一部で根強いファンがいると噂の「区長の独り言《自問自答》」は、菅原さんが日常の中のふとした瞬間に感じたことや閃いたことを短く綴ったもの。過去の会報紙を拝見し、特に心に響いたのは「美しい花を咲かせたければ、まずしっかり根を育てよ」という言葉。生き方や普段の行いを改めて考えさせられるような深い言葉の数々は、読んでいると前向きになり勇気や力が湧いてきます。

最後に菅原さんは、「情報を数多く集めてもそれはあくまで過去のデータに過ぎない。人が言う意見は個人的な経験や知識に基づいてのこと。重要なのはそれらの情報を吟味し法則やヒントを探すことでは」と、民区運営のコツを話してくださいました。



草刈り清掃の後に、ゆとりの杜で一服する皆さん

## 企業紹介



代表取締役  
高橋 政智さん

### ～基本情報～

- ◆代表取締役：高橋 政智<sup>まさとも</sup>さん
- ◆連絡先：〒029-0302  
一関市東山町長坂里前 105-8
- ◆電話：0191-47-2899
- ◆FAX：0191-47-2807

## 地域企業として雇用の場の維持に努める

### ピンチをチャンスと捉えて前進あるのみ

地域名である東山の“東”と字名である里前の“里”を組み合わせた“東里工業株式会社”は、あらゆる（屋根や車産業以外の）板金加工を行う製造業で、設計から生産まで一貫して自社対応できる技術力と設備を保持している企業です。

「雇用の場を維持するのが、地域企業としての大きな貢献」そう力強く語るのは、同社代表取締役の高橋政智さん。小さな頃からものづくりが好きで市内工業系の国立学校を卒業後、上京し金型製造会社に就職しましたが、長男であったために、両親の希望もあり7年後に地元に戻る決意をしました。

高橋さんが帰郷を決意したと同時期に現東里工業敷地には、当時の東山町が誘致した企業が操業していました。高橋さんはその企業に就職し、経験を積み工場長として尽力してきました。しかし、平成11年に倒産という残念な結果となり、誘致企業は地域から撤退していったのです。

平成13年8月、高橋さんを含めた元従業員6人と、これまで仕事上のお付き合いのあった各方面からの支援を基に再起出発を図りました。「設備はほとんど残らなかったが、従業員には技術が残った。ずっとここで地元の人が安心して働ける場をつくろう」という願いも込めて、地域や集落の名称を一字ずつ組み合わせた東里工業株式会社が立ち上がったのです。

### 持ちつ持たれつ同業者という仲間

創業当時6人だった同社でしたが、現在は64名の従業員を雇用しています。「当時はパチスロ関連機器の製造メーカーから機器製造の仕事を受注していましたが、現在は、精密板金加工・レーザー加工・製缶加工・試作品製作・産業用機械の設計製作まで手掛けています。例えば、駅構内のホームにある転落防止用

に設置されている柵や、電車内のトイレユニットも当社で製造を手がけました」と語り、「弊社には営業職はいませんが、信頼と実績はもちろん、仲間同士の情報交換をしながらお仕事をいただいています。地元とのつながりも、同業者仲間がいることも本当に心強いことです」と続けます。

高橋さんは、同業者が集う北東北シートメタル工業会（秋田県・青森県・岩手県から約50社）の会長も務め、同業界の情報交換の場、お互いの工場見学、国家試験へ向けた勉強会の開催などを企画し「困ったときはお互い助け合おう」「情報はみんなで共有しよう」と同業者の仲間づくりにも力を入れています。

### 子どもたちに誇れる企業へ

倒産からたった6人で再スタートを果たした高橋さんは、この経験を基に出身中学校の出前授業で講師を務め、地元中学校の職場体験や工場見学の受け入れも積極的に行っています。「『私たちの身近なところに、地元東山でつくっている製品があるんだよ。ここから産まれているんだよ。みんな地元を誇りをもって夢をもって』そういった思いを子どもたちに見て触れて感じてほしいと思っています」と語ります。

平成27年、同社は創業15年を迎えるにあたり、自社製品“ソーラー蓄電照明装置・防犯灯”3基を東山中学校へ寄贈しました。「これまでの地域への感謝と子どもたちの安全な通学に役立ててもらえればという思いでお届けしました」と当時を振り返り「これからも地域とお客様に満足していただけるよう努力し、子ども達に誇れる企業として頑張りたい」と語ってくださいました。



東山中学校へ寄贈したものと同一防犯灯  
東里工業敷地内 従業員駐車場



## センターの ○○!

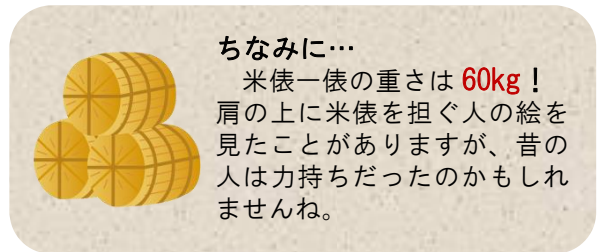
全国ご当地もちサミット 2017 が盛会裏に終わったところですが、岩手・一関全国わんこもち大会が開催されるなど、一関の餅文化をユニークに発信する取り組みが積極的に展開されている我がまち一関。

もちの聖地!?!と呼ばれるようにもなり、ユネスコ無形文化遺産に和食が登録され、その中の一つに餅が含まれ、ますます全国から注目される餅文化ですが、そんな我がまちの「餅のルーツ」に迫ります。

一関地方では何かというと餅をつきます。年中行事や季節の区切りに餅料理が作られますが、中でも珍しいのは祝儀や不祝儀での餅本膳料理で、この地方独特のものといわれています。

この地方でこんなに餅を食べるようになったのは、江戸時代にさかのぼり、武家の年中行事が商家へと伝わり、商家から農家へ。神仏や農具、農作業の区切りなどに餅を供え、いつしか豊作と家内安全を祈る農家の年中行事となりました。その当時の農家は年貢を納めるのが精一杯で、自分たちはくず米などを粉にして練り合わせ、雑穀と混ぜた「しな（しいな）もち」にして食べるのが一般的でした。それを工夫してよりおいしく食べるために、いろいろな餅料理が作り出されたのです。

このように一関地方の餅文化は、農作業と農家の生活に深くかかわりながら、長い年月のなかで多くの人々の知恵や工夫によって現在に伝えられてきました。この地方に伝わる餅料理は約三百種。その多彩さは日本一を誇ります。




## 先人達の知恵で生まれた**三百の味**

上記は「岩手・一関全国わんこもち大会」のプログラムで使用している一関の餅文化の紹介文ですが、一関の餅文化の特徴は、そう、**味の種類**です！

江戸時代の主産業は農業であり、特にも河川地帯であった当地域は稲作が盛んに行われていました。これは今も変わることなく受け継がれていますが、前述の通り江戸時代は年貢制度があり、農家は年貢を納めると自分たちが食べる米は「くず米」しかありませんでした。決しておいしいとは言えないくず米をおいしく食べるための工夫として、味の種類を考えたということです。特にもご祝儀や不祝儀など、客人をもてなすために考えたといういわれもあり、耕作条件が良いと言える環境ではなく、厳しい生活状況の中から考え出した先人たちの知恵であったと推測します。

機械化し、稲作を行う条件も整った今の時代でくず米はないのでしょうか？今でもくず米はあります。実際に米の精米過程を見てみましょう。



左の丸い皿が玄米  
右の四角い皿がくず米

脱穀して玄米とくず米に仕分けます。  
玄米は1袋 30kg、くず米は1袋 25kg で出荷。

玄米は粒ぞろいで綺麗ですね。

一方くず米は未成熟の米が多く、青米だったり胴割れを起こしたりと状態は悪いです。

今の時代、くず米はせんべいの材料や米粉として利用されていますが、その昔は庶民の主食がこのくず米であったこと、そして、おいしく食べるための工夫により、餅の味（絡めるタレ）が多くなったということが、我がまちの餅文化の特徴です。

# おしらせ

## 一関

### 第6回作品展

萩荘で活動する「釉遊くらぶ」が制作した陶芸作品・一閑張作品を展示します。今回は、姉妹サークルの「遊閑くらぶ」も特別参加！たくさんの方のご来場をお待ちしております。

\*\*\*\*\*

【期間】平成29年12月2日(土)～3日(日)

【時間】10時～16時

【場所】世嬉の一酒造 2階和室

【料金】入場無料

【問合せ】090-1063-7113(小岩)

## 一関

### 清庵祭

郷土の偉人である建部清庵の業績を伝承しながら、同人が著した「民間備荒録」に基づく野草等を活用して地域おこしを行うことを目的に設立した「建部清庵文化顕彰会」では、その清庵の知恵を学び体験できる「清庵祭」を開催します。高野長英に関する文化講演会、紙芝居のほか、つみくさ料理の試食や山野草を使った食品展示・販売などを行います。

\*\*\*\*\*

【日時】平成29年12月2日(土)10時～14時

【場所】世嬉の一酒造 クラストン

【参加料】無料

## 一関

### 善楽流獅子舞 舞台発表

舞川に伝わる「善楽流獅子舞」が「第20回一関地方伝承芸能継承交流会」にてカイン差し、お脇拂いを披露します。

当日のイベントには、このほかにも「蓬田神楽」、「舞川鹿子躍保存会」など舞川の芸能団体が多数出演。記念イベントの紅白餅まきもお楽しみに！

\*\*\*\*\*

【日時】平成29年12月3日(日)9時開会

【場所】一関文化伝承館(舞川市民センター)

【料金】入場無料

## 一関

### いちのせきこどもふえすた

「おさがりひろば」「郷土料理コーナー」「よみかせコーナー」「ものづくりコーナー」「バルーンコーナー」「サイバーホイール」等、親子で楽しめるコーナーを多数ご用意しています。午後からはコンサートや豪華賞品が当たる抽選会も開催！ぜひご家族でお越しください。

\*\*\*\*\*

【日時】平成29年12月9日(土)10時～15時

【場所】なのはなプラザ2階

【料金】参加無料

【問合せ】0191-26-6401(おやこ広場)

## 藤沢

### FEST presents 藤沢 まちあかり

藤沢市民センターの広場をイルミネーションでライトアップし、参加者で華やかに飾り付ける、体験型イベントです。温かい甘酒もご用意しています。

\*\*\*\*\*

【期日】平成29年12月9日(土)

※悪天候の場合、12月16日(土)開催

【時間】13時～受付開始・飾付(燭台等持ち込み可)

17時～点灯式

【場所】藤沢市民センター

【料金】参加無料

【問合せ】0191-63-5515(藤沢市民センター)

## 一関

### 動く瞑想法 Moving Meditation Class

東北 BUTOH 共振塾では、月2回、動く瞑想法のクラスを開催します。日常ですっと使い続けている思考を休めて、体と心に向き合い、がんじがらめになっている体と心ころの薄皮を剥ぐように解放していく感覚が実感できます。※初回お試し体験も行っています。

\*\*\*\*\*

【日時】毎月第2、第4水曜日

13時～15時30分(両日とも)

【料金】2,000円/月

【場所】スペース・イグ(一関市赤荻字上袋204)

【問合せ】070-5326-8118(岩淵)

## 一関

### 門松作り

手作り門松で気持ちよく新年を迎えましょう！講師の佐藤靖雄さん(あいぽーとサポートスタッフ)の指導で、一緒に皆で門松を作ります。先着10名でお申し込みを受け付けています。

\*\*\*\*\*

【日時】平成29年12月16日(土)10時～

【場所】北上川学習交流館あいぽーと

【料金】無料 ※一人ひとつの作成です。

【問合せ】0191-26-0077(場所と同じ)

## 川崎

### 第3回 自治会長サミット

自治会運営に携わること本人から皆さんに「自治会運営のコツ」をご紹介します！今回は「上津谷川自治会(室根)」と「藤沢第8区自治会(藤沢)」に発表いただきます。一関市内の自治会長または準ずる役職員(民区長、集落公民館長)の方が参加できます。

\*\*\*\*\*

【日時】平成30年2月21日(水)

13時30分～16時30分

【場所】川崎市民センター

【参加料】無料

【問合せ】0191-26-6400(いちのせき市民活動センター)

## 全域

「この仕事も俺の代で終わりだなあ〜」  
そう思っている方探しています。

平成30年3月に一関へ移住定住を希望している方向けの「暮らし体験ツアー」を開催します。ツアーでは、一関で「技術を継承したいけど後継者がいない」「外の人に仕事を見てもらいたい」という方の所を回ります。職種は農業・工業・商店など問いません。「ぜひ私の所へ！」というご連絡をお待ちしています。

\*\*\*\*\*

【連絡先】①0191-82-3111

(いちのせきニューツーリズム協議会)

②0191-34-8421(まるく・土日可)

## 今月の表紙



花泉町・金沢の地域協働体「金沢ふるさと協議会」では、餅文化を若い世代にも継承していきたいという想いで、協議会として臼と杵を購入。一関市における餅文化は花泉、特に金沢が発祥という説もあるそうで、一年を通じ、地域内の各種行事の際に餅をついていきたいとのこと。

## Q & A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

**Q** イベントで火器を使用したいのですが、何か許可は必要ですか？

**A** イベント等で花火やガスなどの火器を使用する際は、消防署に事前に相談しましょう。イベントの開催を届け出るだけで申請は不要な場合もありますし、逆に規模によっては消防署や自治体の許可が必要な場合もあります。まずは消防署へ相談し、その判断を仰ぎましょう。

